

令和2年 7月の安らぎ通信

(1) 「親戚・知人宅に避難」多く 「避難所増やす必要」

台風19号で福島県

*昨年10月の台風19号で死者が全国最多の30人に上った福島県は、被災した県民に実施した避難行動に関するアンケート結果を発表。

*「避難した」のは60.6%。

*避難先は「親戚・知人宅」が35.9%で最も多く、「自宅やマンションの上階」が19.3%。

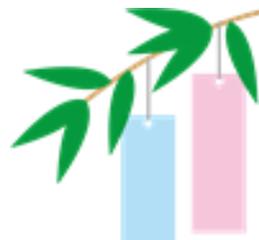
*今後、新型コロナウイルスの感染リスクを考え、親せき宅への避難を遠慮するケースが出てくると考えられます。

*災害の際は自治体が十分な感染対策を取ったうえで避難所を増やす必要があるとの声。

*避難しなかったのは38.1%。

*避難しなかった理由は「自宅が被害に遭うとは思わなかったから」が最も多く。

(2020年6月1日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(2) 避難所「3密」に備え

大阪府 別家族と2メートル／発熱は隔離

八尾市 段ボールベッドに仕切り

*大雨や台風など災害が増えるシーズンを前に、住民が集まる避難所での新型コロナウイルス感染を防ごうと、各自治体が運営の見直し。

*大阪府は、避難先を増やすため宿泊施設の活用などを新たに盛り込んだ指針を公表。

*飛沫感染を防ぐため段ボール製の間仕切りを検討したり、発熱者専用の避難所を設けたりする動きも。

*大阪府内の市町村が避難所として指定しているのは2019年度で計約2800箇所。

☆大阪府の避難所運用指針の主な追加点

●避難前の準備

- ・避難グッズにマスクや消毒液などを追加。
- ・自宅療養者や濃厚接触者に保健所が専用避難先を伝える。

●避難先

- ・避難所、ホテル、自宅待機、親せきや友人宅。

●避難所レイアウト

- ・1家族ごとに1～2メートルの間隔を確保。

(2020年6月4日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

